

商品名 ガストログラフィン経口・注腸用 添付文書情報

一般名	アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン液	薬価	19.50
規格	1mL	区分	
製造メーカー	バイエル薬品	販売メーカー	バイエル薬品
薬効	7. 治療を主目的としない医薬品 72. 診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 721. X線造影剤 7211. ヨウ素化合物製剤		

ガストログラフィン経口・注腸用の組成・成分

100mL中

アミドトリゾ酸：59.73g

メグルミン：15.924g

水酸化ナトリウム：629mg

ガストログラフィン経口・注腸用の用法・用量

・ 経口

〈消化管撮影〉

通常成人1回60mL（レリーフ造影には、10～30mL）を経口投与する。

〈コンピューター断層撮影における上部消化管造影〉

通常成人30～50倍量の水で希釈し、250～300mLを経口投与する。

・ 注腸

通常成人3～4倍量の水で希釈し、最高500mLを注腸投与する。

ガストログラフィン経口・注腸用の効能・効果

[1] 消化管撮影

次記の場合における消化管造影

狭窄の疑いのあるときの消化管造影。急性出血の消化管造影。穿孔の恐れのあるとき（消化器潰瘍、憩室）の消化管造影。その他、外科手術を要する急性症状時の消化管造影。胃切除後及び腸切除後（穿孔の危険、縫合不全）の消化管造影。内視鏡検査法実施前の異物及び腫瘍の造影。胃瘻孔・腸瘻孔の造影。

[2] コンピューター断層撮影における上部消化管造影。

ガストログラフィン経口・注腸用の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：ショック（意識消失、心停止等）、アナフィラキシー（呼吸困難等）を起こすことがある。

2. その他の副作用：

[1] 過敏症：（頻度不明）そう痒感、じん麻疹、発疹、発赤、紅斑。

[2] 循環器：（頻度不明）血圧低下。

[3] 消化器：（頻度不明）下痢、悪心、嘔吐、腹痛、腹部不快感。

[4] 内分泌系：（頻度不明）甲状腺機能低下症。

[5] その他：（頻度不明）発熱。

ガストログラフィン経口・注腸用の使用上の注意

【禁忌】

ヨードに過敏症又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

1. ヨード系造影剤に過敏な反応に備え、使用に際しては十分な問診を行うこと。
2. まれに過敏反応を示すことがあるので、投与に際しては必ず救急処置の準備を行うこと。
3. 投与にあたっては、患者の状態を観察しながら、過敏反応の発現に注意し、慎重に投与すること（また、異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと）。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者。
2. 腸炎又は結腸炎のある患者：症状が一過性に悪化することがある。
3. 脱水症又は電解質代謝異常のある患者：これらの患者に投与する場合は、あらかじめ水・電解質代謝を正常にするなど適切な処置を行うこと（本剤は高張液であるため、脱水症や水・電解質代謝異常を起こしやすく、症状が悪化するおそれがある）。
4. 誤嚥を引き起こすおそれのある患者：高齢者、小児、嚥下困難、意識レベル低下した患者等に経口投与する際には観察を十分に行い注意すること（誤嚥により、呼吸困難、肺水腫等を引き起こすおそれがある）。また、術前造影を実施した場合には、麻酔導入時の嘔吐等による誤嚥に留意すること（誤嚥により、呼吸困難、肺水腫等を引き起こすおそれがある）。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、診断上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること（本剤投与の際にはX線照射を伴う）。

【授乳婦】

診断上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

- 1) 新生児、乳児、幼児又は小児ではあらかじめ水・電解質代謝を正常にしたのち、投与すること（本剤は高張液である）。
- 2) 新生児、乳児、幼児又は小児には必要量以上の投与はしないこと（高張性で腸よりほとんど吸収されないため脱水症状等を起こしやすい）。

【高齢者】

患者の状態を十分に観察しながら慎重に投与し、高齢者の場合、誤嚥の危険性や脱水・電解質代謝異常の有無に留意すること（一般に生理機能が低下している）。

【臨床検査結果に及ぼす影響】

本剤投与により、甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる検査に影響を及ぼすおそれがあるので、放射性ヨードによる検査は本剤の投与前に実施すること。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：血管内に注射しないこと。

【取扱い上の注意】

1. 外箱開封後は遮光して保存すること。
2. 低温（7℃以下）で結晶が析出することがあるが、この場合は水浴中で加温、振りまぜ、結晶を溶解したのち使用すること。安全性及び効果に影響はない。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』